

# 宇部市立小中学校適正規模・適正配置 計画

～将来あるべき学校の姿とその実現に向けた取り組みについて～



宇部市教育委員会  
教育総務課

はじめる前に・・・

◆小中一貫教育

◆施設一体型小中一貫教育

◆義務教育学校

とは

## ◆小中一貫教育とは

- 連続する小中学校で「めざす子ども像」（教育目標）を共有して、9年間を通じた系統性・連続性のある教育活動を行うもの。
- 令和2年度(2020年度)からすべての中学校区で導入。

## 【メリット】

- 中一ギャップの緩和や解消
- 確かな学力の定着
- 異学年交流などによる精神的な発達

## 【具体的な取組】

- 「めざす子ども像」を共有し、同じベクトルで児童生徒を育てる
- 9年間を見通したカリキュラムを実施
- 小学校5・6年生で教科担任制
- 小学生と中学生の交流授業
- 小中教員による相互の乗り入れ授業など

【参考】

<恩田小・岬小・常盤中>

常盤中学校区  
小中一貫教育グランドデザイン  
～小中9年間のつながりを大切にした教育～

3校共通の学校教育目標  
『学び合い、支えあって生きる』

共生社会(特別支援教育)～誰もが主役になれる学校をめざして～

**学習指導 (知)**

(目標) 『学び合い、育ちあう子ども』  
(つきたい力) 『聞く力・伝える力』

- ◆学習規律を守る  
相手の思いや考えの傾聴  
正しい言葉づかい
- ◆家庭学習に計画的に取り組む  
「学習の手引き」の活用  
ノーメディア・デーの実施

**生徒指導 (徳)**

(目標) 『明るく素直な子ども』  
(つきたい力) 『自他を認める力』

- ◆自ら進んで挨拶をする
- ◆時間を守る  
(小) チャイムの合図を意識  
(中) 2分前着席、1分間黙想
- ◆自分の区域を責任をもって掃除

**学校保健 (体)**

(目標) 『自ら生活のリズムを整え、心身ともに健康で安全な生活ができる子ども』  
(つきたい力) 『自己を調整する力』

- ◆規則正しい生活  
早寝・早起き・朝ごはん  
メディアコントロール
- ◆正しい姿勢(体幹の強化)
- ◆体づくり

学校教育を支える『コミュニティ・スクール』の取組

<学校運営>



学校運営協議会への児童参加

<学校支援>



昼休みの学習会

<地域貢献>



常盤海岸の清掃

令和6年度 常盤中学校区小中一貫教育取組計画書  
(常盤中・恩田小・岬小)

めざす子どものすがた	つきたい力	視点
「学び合い、支え合って生きる子ども」 学習指導『学び合い、育ちあう子ども』 生徒指導『明るく素直な子ども』 学校保健『自ら生活リズムを整え、心身ともに健康で安全な生活ができる子ども』	学習指導「聞く力・伝える力」 生徒指導「自他を認める力」 学校保健「自己を調整する力」	わかりやすい 子どもと考える ふり返りができる

**今年度の重点取組**

○総合的な学習の時間を軸に、「聞く力・伝える力」について、中学校と小学校の取り組みを具体的に結びつけていくとともに、「聞く力・伝える力」の評価方法について検討し、実践していく。

**具体的な方法**

1学期に小学校教職員の中学校見学を通じた交流研修会を実施。常盤中学校区の小中一貫教育についての共通理解と、1年間の見通しをもち、取組への提案を行う。

○「総合的な学習の時間」を軸として、9年間を見通したカリキュラムの見直しを行う。  
・小中一貫教育カリキュラムのつきたい力である「聞く力・伝える力」の評価について協議する(6月、8月、10月)  
・中学校区教職員全体共有(11月学部授業の日)

○「総合的な学習の時間」の小中合同発表会を実施し、学習指導におけるつきたい力「聞く力・伝える力」の伸長を図り、その評価を行う。(12月)

○拡大学校運営協議会において、全国学力・学習状況調査、山口県学力定着状況問題の分析結果を共有し、つながりを意識したカリキュラムの作成及び実践に生かす。

**「つきたい力」のふり返り**

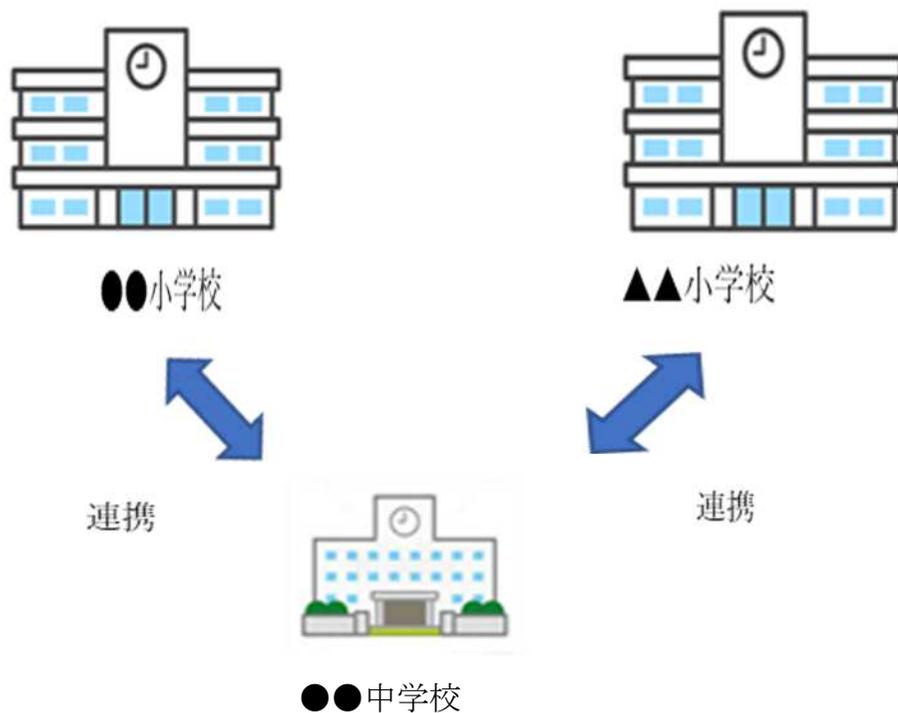
- ・相手の発表を正しく聞き取り、理解することができたか。
- ・構成や表現のしかたを工夫し、相手に伝えることができたか。
- ・自らの聞く力、伝える力について振り返って評価し、次に生かすことができたか。  
(全国学力・学習状況調査質問紙)(学校評価アンケート・学校行事の振り返り)  
(聞く力・伝える力振り返りシート)

小・中学校をなめらかに「つなぐ」ために

乗り入れ授業の取組	(小学校)教科担任制の取組	交流行事や中学校説明会等の取組
・中学校から少人数担当教員が、恩田小(月2回)、岬小(月1回)にそれぞれ出向き、情報交換や授業補助をする。 ・恩田小学校からは生徒指導担当教員が、毎週1時間、中学校1年生の授業補助に入り、情報交換を行う。	(恩田小) 3.4年(理科専科)5.6年(理科専科)、3.4年(英語専科)5.6年(英語専科)、6年(交換授業1組) 2組3組4組 1・2学期 家庭科・図工・体育・音楽・社会・道徳)  (岬小) 5.6年(理科専科)5.6年(交換授業 体育と外国語)6年(算数少人数指導)3.4.5.6年(保健 養護教諭による授業)	・小中連携あいさつ運動 ・月1回、中学校から生徒が恩田小、岬小に出向き、小学生と一緒にあいさつ運動を行う。 ・常盤中見学会 11月中旬に土曜参観を中学校で実施。 対象は、常盤中学校に進学予定の小学生、及びその保護者。 内容は、授業参観、生徒会からの説明、部活動見学等 ・小中交流研修会 1学期実施 ・小中合同研修会 8月実施 ・「総合的な学習の時間」小中合同発表会 2学期実施 ・常盤中生徒による6年児童を対象にしたキャリア教育

## ◆施設の形態

従来の小中一貫教育  
(施設隣接型・分離型)



施設一体型小中一貫校



同一敷地内に、小学校と中学校を設置する施設整備の形態

## ◆学校の形態

	小中一貫型小学校・中学校	義務教育学校
校長	小学校・中学校に1人ずつ	1人
教職員組織	小学校・中学校に1つずつ	1つ
学年	小学校6年 中学校3年	1年生から9年生

# 計画の説明

# 宇部市立小中学校適正規模・適正配置計画

## ◆計画期間

令和6年度(2024年度)から令和15年度(2033年度)  
までの10年間

計画策定5年後には必要に応じて見直す。

## ◆学校のあるべき姿

児童生徒が、多様な考え方に触れ、切磋琢磨することを通じて、一人ひとりの資質や能力を伸ばしていける**集団規模**と、安心・安全な教育環境のもとで、地域と連携を図りながら、**義務教育 9年間**を見通したつながりのある教育を提供することにより、児童生徒の確かな学び（健やかな成長）を保障できる学校

### 【理想形】

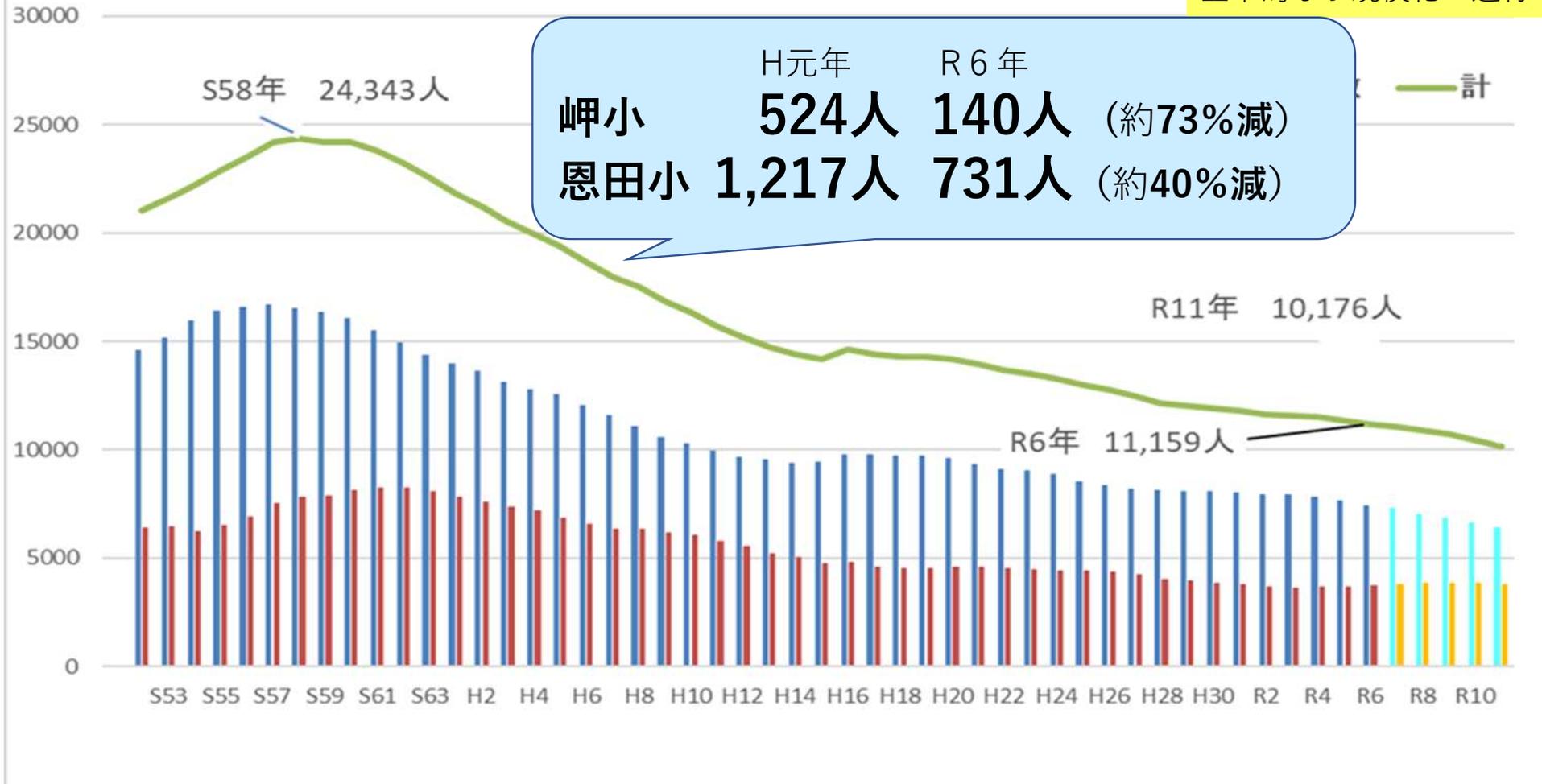
児童生徒の社会性を育むことができる**集団規模**を有し、校区の中心に位置する**同一敷地内に小中学校がある義務教育学校**

# 宇部市の現状と課題

# 1 宇部市の児童生徒数

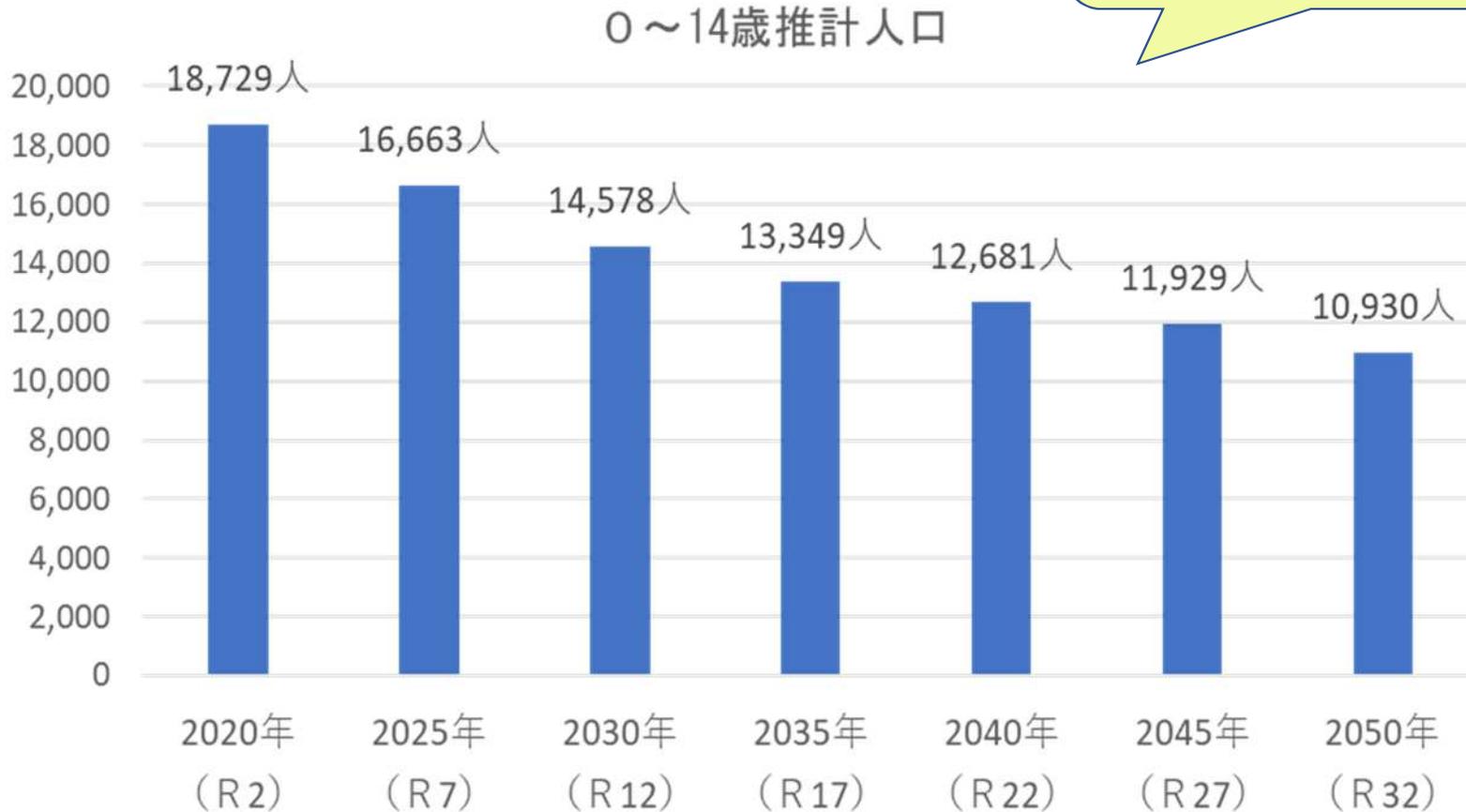
学校規模（令和6年5月1日現在）  
 24小学校 4校が複式学級  
 5校が単学級  
 全市的な小規模化の進行

児童生徒数の推移と予測



## 本市の将来推計人口

30年間で7,799人  
42%減少



出典：「日本の地域別将来推計人口（令和5年(2023)年12月公表）」（国立社会保障・人口問題研究所）

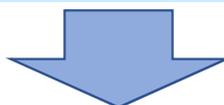
## 2 小中一貫教育

### ■小中一貫教育とは

連続する小中学校で「めざす子ども像」を共有して、9年間を通じた系統性

・連続性のある教育活動を行うもの

⇒「**中一ギャップの緩和や解消**」「**確かな学力の定着**」などの実現を目指す



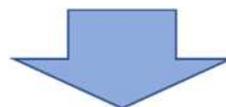
令和2年度からすべての中学校区で導入



進学先が分かれる小学校では、どちらか一方の中学校と連携することとなるため、連携先でない中学校に進学する児童については、系統性・連続性のある教育活動が難しい

### 3 学校選択制

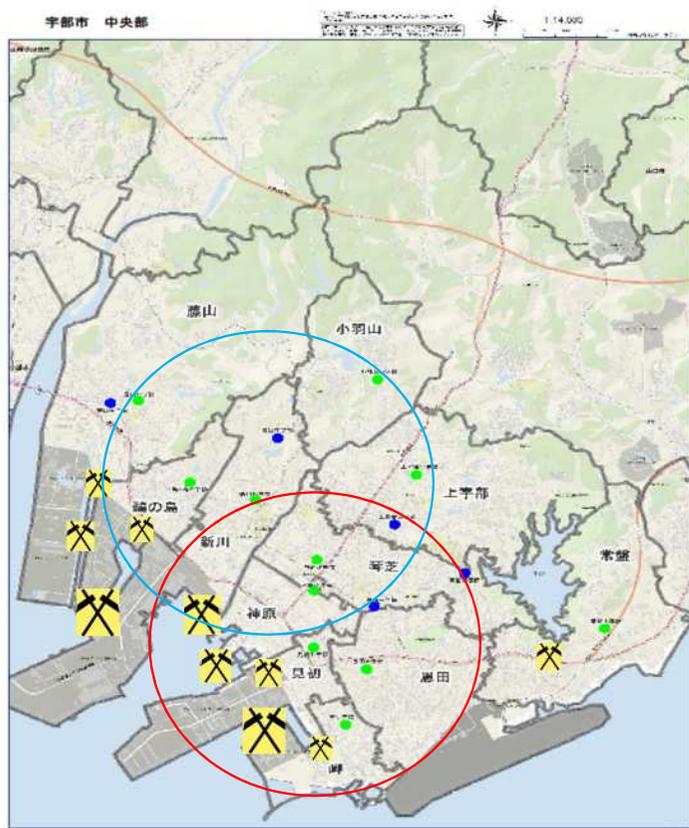
通学区域の弾力化を図るため、学区の一部の自治会に居住する児童生徒が、住所地の属する学区の学校（就学校）に加えて、隣接学区の学校を選択できる制度



平成20年度から通学区域に偏りが生じている学校で導入



利用者の増加により本来の就学校で大幅に入学者が減少している学校がある



施設（校舎）の建設年度一覧

令和6年4月1日現在

# 4 学校施設

小学校名				経過年数	中学校		
				70年以上	藤山	常盤	
	藤山	神原	鶺ノ島	69年～ 築60年	桃山	厚南	
恩田	新川	原	万倉	59年～ 築50年	西岐波	東岐波	
厚南	上宇部	常盤	東岐波	49年～ 築40年	楠		
厚東	小羽山	西宇部	見初				
			吉部				
川上	船木	琴芝	黒石	39年～ 築30年	川上	黒石	神原
		小野	二俣瀬	29年～ 築20年	上宇部		
			西岐波	19年～ 築10年	厚東川		
			岬	築10年 未満			

## ◆課題解決に向けた取組の方向性

### ①小中一貫教育の推進

進学先が分かれる小学校の解消を図る

### ②望ましい学校規模の確保

一定の集団規模を確保するための**基準(適正規模・適正配置基準)**を定めて、通学区域の変更や適正配置の検討を進める

### ③学校施設の整備

学校施設の更新時期を踏まえた、学校の統廃合の検討を進める

## ◆望ましい学校規模と学校配置の基準

《適正化のための地域区分》

市街地地域：北部地域以外

北部地域：厚東、二俣瀬、小野、船木、万倉、吉部

### ■望ましい学校規模の基準

	市街地地域	北部地域
小学校	12学級以上（1学年2学級以上）	6学級以上（1学年1学級以上）
中学校	6学級以上（1学年2学級以上）	3学級以上（1学年1学級以上）

### ■望ましい学校配置の基準

	通学距離	通学時間
小学校	おおむね 4 Km以内	おおむね 1 時間以内
中学校	おおむね 6 Km以内	おおむね 1 時間以内

# ◆具体的な取組

## ①小中一貫教育の推進

一つの小学校からは一つの中学校の進学となるよう、中学校の通学区域を優先的に見直し、必要に応じ小学校の通学区域の見直しを行う。

### 【進学先が分かれる小学校の中学校区域の再編】

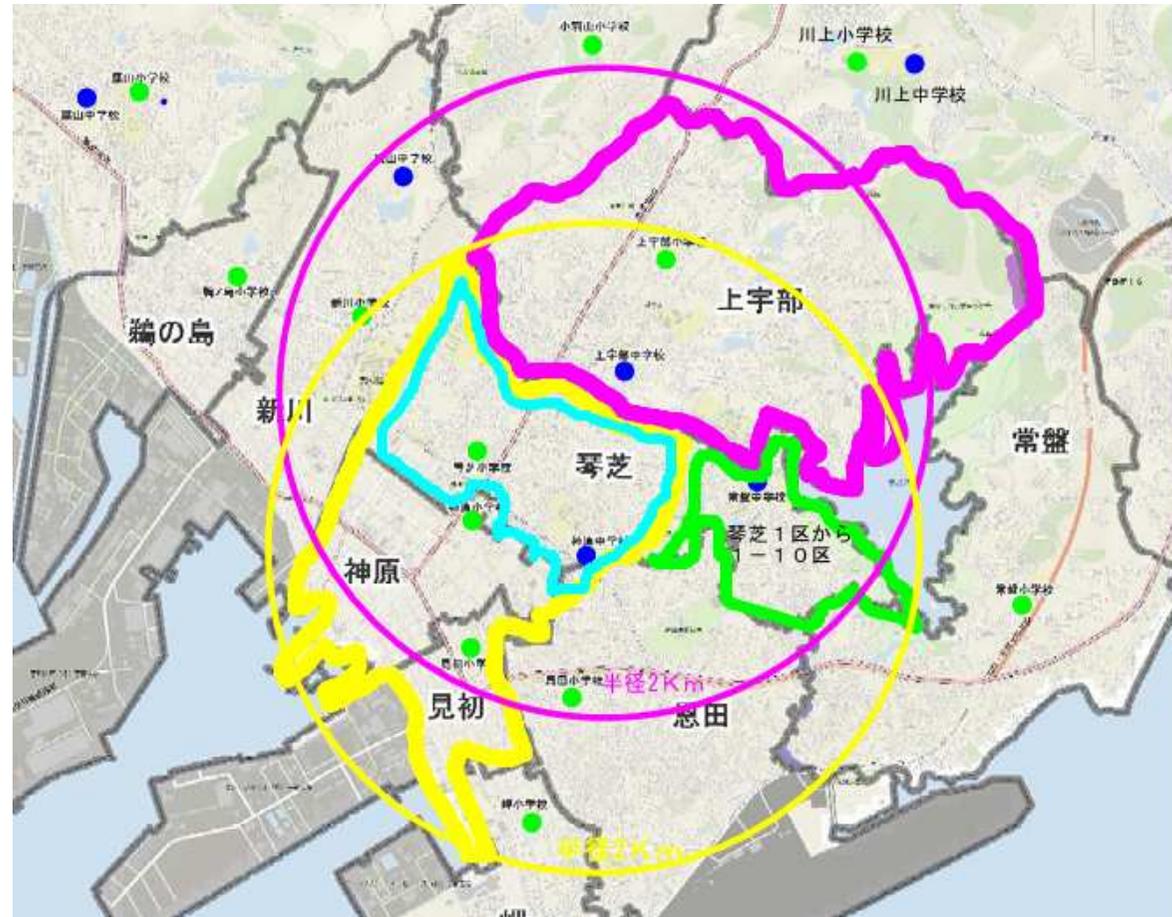
	現在の進学先	再編後	対象地区
常盤小	西岐波中・常盤中	西岐波中	常盤全区
琴芝小	上宇部中・常盤中	神原中	琴芝全区 (琴芝1区から1-10区を除く)
		常盤中	琴芝1区から1-10区
鶉ノ島小	桃山中・藤山中	藤山中	鶉の島全区

⇒ 恩田小へ区域変更

## ■令和6年度の琴芝小通学区域の学校選択制利用者数と割合

選択学校	琴芝自治会区	対象者数	利用者数	利用割合
神原小	3区、3-11区、4区、4-2区、 15区、40区、40-1区	114	79	69.3%
恩田小	1区、1-5区、1-10区	95	80	84.2%
常盤小			8	8.4%

## 【新たな神原・上宇部中学校通学区域の概略図】



※中学校の通学区域の変更に伴い、琴芝1区から1-10区の小学校の通学区域は恩田小学校に変更します。

## ②望ましい学校規模の確保

### 検討対象校

#### 《市街地地域の検討対象校》

岬小学校、見初小学校、神原小学校、鶉ノ島小学校

#### 《北部地域の検討対象校》

厚東小学校、二俣瀬小学校、小野小学校、  
万倉小学校、吉部小学校

複数の学校が集中し、老朽化が進んでいる学校がある市街地地域の検討対象校から優先的に取り組む。

## ③学校施設の整備

施設一体型小中一貫校または義務教育学校の設置を目指す

## 【市街地地域の適正化の方向性】

### ■ 検討対象校：見初小学校、神原小学校

3小1中（見初小、神原小、琴芝小、神原中）の施設一体型  
小中一貫校の設置に合わせ統合を進める

### ■ 検討対象校：鶉ノ島小学校

2小1中（藤山小、鶉ノ島小、藤山中）の施設一体型小中  
一貫校の設置に合わせ統合を進める

### ■ 検討対象校：岬小学校

本計画期間中は、適正化は行わず小規模校のメリットを活かした教育の充実を図る

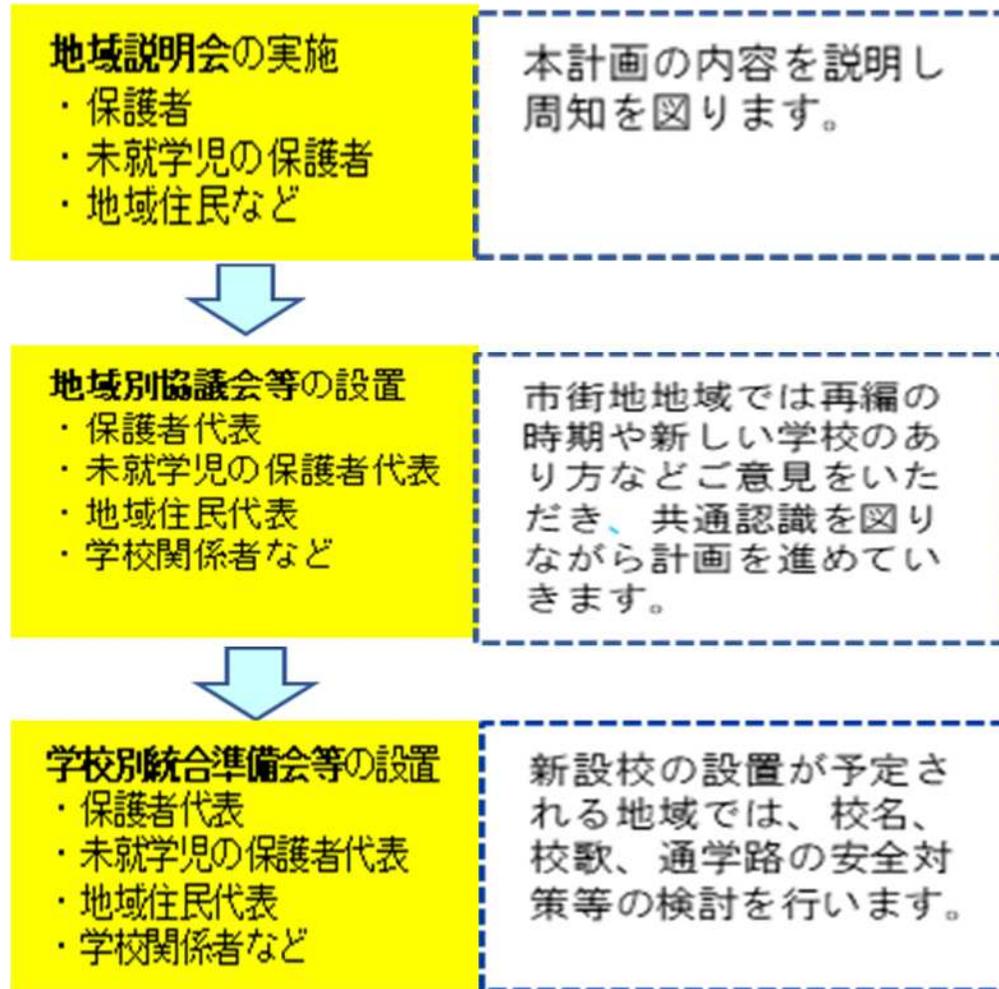
# 学級数と児童数の比較

学級数と児童数の比較

令和6年度					校数	学級数	校数	令和11年度推計				
複式学級	二俣瀬 (20)	小野 (21)	吉部 (21)		3	3	2	二俣瀬 (14)	小野 (9)	吉部 (9)	万倉 (18)	複式学級
複式学級と単学級			万倉 (29)		1	4	0					
単学級					0	5	0	厚東 (48)	複式学級と単学級			
岬 (140)	船木 (116)	鷺ノ島 (112)	見初 (96)	厚東 (69)	5	6	1	神原 (167)	岬 (102)	船木 (89)	鷺ノ島 (106)	見初 (76)
1～2学級/学年					0	8	3	西字部 (196)	単学級			
					0	10	0	小羽山 (221)	1～2学級/学年			
		原 (261)	西字部 (247)	小羽山 (277)	3	11	1	川上 (285)				
		川上 (385)	神原 (315)	琴芝 (284)	3	12	1	新川 (315)	原 (260)			
2～4学級/学年				新川 (401)	1	14	0	琴芝 (364)	常盤 (433)			
				常盤 (423)	1	15	1	藤山 (431)	3～4学級/学年			
					0	16	0	東岐波 (448)				
		上字部 (556)	東岐波 (522)	藤山 (505)	3	18	0	西岐波 (483)	上字部 (491)			
				厚南 (586)	1	19	0	厚南 (551)				
					0	20	1	恩田 (614)				
				黒石 (663)	1	21	0					
				西岐波 (655)	1	22	0					
					0	23	1	黒石 (670)				
				恩田 (731)	1	24	0					

# ◆計画の進め方と配慮事項

## (1) 計画の進め方



## (2) 配慮事項

### ①児童生徒の不安解消

- ・ 事前の交流機会の充実と再編後のきめ細やかなケア
- ・ 緩やかな移行に向けた仕組みの検討

### ②児童生徒の通学支援

- ・ スクールバスや公共交通機関の活用
- ・ 学校と保護者や地域の連携

### ③小規模校の課題への配慮

- ・ 中山間地域では、特認校制度の活用や移住定住策の推進に地域や市長部局と連携し取り組む。

### (3) 再編スケジュール

	R6年度 (1年目)	R7年度 (2年目)	R8年度 (3年目)	R9年度 (4年目)	R10年度 (5年目)	R11年度 (6年目)	R12年度 (7年目)	R13年度 (8年目)	R14年度 (9年目)	R15年度 (10年目)
藤山中	地域説明	地域協議 再編準備		中学校区の再編（藤山小・礪ノ島小）						2小1中 小中一貫校 開校
藤山小				2小1中 小中一貫校 基本設計	実施設計	施工				
礪ノ島小				開校準備委員会設置（開校に向けた検討・準備）						
				藤山中学校へ進学						
神原中	地域説明	地域協議 再編準備		中学校区の再編（見初小・神原小・琴芝小）						
神原小				地域協議 (3小1中小中一貫校)			3小1中 小中一貫校 基本設計	実施設計	施工 R19年度 開校目途	
琴芝小										開校準備委員会設置 (開校に向けた検討・準備)
見初小				神原小・琴芝小との交流や合同学習・小規模校のメリットを活かした教育の充実（R19年度新設一貫校へ）						
常盤中	地域説明	地域協議 再編準備		中学校区の再編（恩田小・岬小）						
恩田小				小学校区の再編（琴芝小の一部編入）						
岬小				恩田小との交流や合同学習・小規模校のメリットを活かした教育の充実						
西岐波中	地域説明	地域協議 再編準備		中学校区の再編（西岐波小・常盤小）						
常盤小				西岐波中学校に進学						
厚東小	地域説明		他校との交流や合同学習・小規模校のメリットを活かした教育の充実、地域や市長部局と連携した児童生徒増加策の推進					R11年度時点で5年先までの児童数を確認し、児童数の推移が学校全体で12人未満の見込みとなった場合は適正化を推進		
二俣瀬小										
小野小										
吉部小										
万倉小										
【関連校】										
桃山中	地域説明			中学校区の再編（小羽山小・新川小）						
上宇部中				中学校区の再編（上宇部小）						

# まとめ（恩田・岬）

## ①小中一貫教育の推進

一つの小学校からは一つの中学校の進学となるよう、中学校の通学区域を優先的に見直し、必要に応じ小学校の通学区域の見直しを行う。

➡ **令和9年度より琴芝地区の一部の子は恩田小に進学**

## ②望ましい学校規模の確保

➡ **岬小学校は、検討対象校であるが今計画期間中は適正化は行わず、恩田小との交流や合同学習を続ける**  
よって、恩田小の学校選択制については、当面継続  
**（恩田小の通学区域の変更は行わない）**

## ③学校施設の整備

老朽化した校舎の建て替えに合わせ、施設一体型小中一貫校または義務教育学校の設置を目指す。

➡ **現状維持**

次の時代を担う子供たちに  
より良い教育環境を整えるた  
めに、皆様のご理解とご協力  
をお願いします。

ご清聴ありがとうございました。